

釧路南ロータリークラブ会報

第16回 例会報告 2013.10.25 通算1511回

・点

鐘

佐藤玄史会長

・会 長 挨拶

・ロ - タリ - ソング

「手に手つないで」



ソングリーダー 阪根 太志会員



こんにちは、日に日に寒くなり秋も急ぎで冬に向かっていきます。阿寒の山も白い雪が山頂を覆い来春まで冬模様と思います。上期もガバナー公式訪問、地区大会、大きな行事も終え先日も工藤ゆかり情報委員長を中心に新会員のオリエンテーションが小川会員の「浜っ子」で行われ、美味しい料理で楽しく有意義なオリエンテーションが行われました。11月は、スポーツ例会、観楓会、家族参加で企画されますので、ぜひたくさんさんの参加を期待しています。12月は、年次総会、クリスマス例会がクラブとして大きな行事が予定されております。前田親睦委員長よりしくお願いいたします。引き続き会員の協力をお願いいたしまして会長挨拶といたします。

・お客様と来訪ロータリアンの紹介

貝嶋 正治地区大会実行委員長（釧路ベイRC）

漆崎 隆地区幹事（釧路ベイRC）



・幹 事 報 告



* R I 2500 地区葭本ガバナーよりコホストである当クラブにエクスカージョンの礼状を拝受しております。

* R I より日本語に翻訳されました 2014 年～15 年度のロータリークラブ定款がホームページからダウンロードできるようになっています。年度は 7 月 1 日から始まる 12 か月間ということで、全 15 枚のコピーは回覧しております。ダウンロードのアドレスを希望する方は幹事まで連絡ください。

* 奥周盛ガバナーエレクトと奥原宏次期地区幹事より、ガバナーエレクト事務所開設のご案内が来ています。

* 次年度会長宛に R 財団補助金管理セミナーのご案内が来ています。場所は帯広で 12 月 14 日（土）に開催です。今年度は、佐藤玄史会長、佐藤寛治、長江勉 R 財団米山委員長で参加し、本年度の補助金は受けました。補助金の支給はセミナーに最低 1 名以上の参加と覚書（MOU）を交わすことが条件となっています。

* 釧路市市民憲章推進協議会より第 49 回全国大会釧路大会プレイベントの講演会の開催についてのご案内が来ています。平成 25 年 11 月 14 日（土）14 時から 16 時で会場はまなぼと幣舞です。参加希望者は幹事まで連絡ください。

* R I 2530 地区渡邊ガバナーより当クラブへ「水からプロジェクト」に際し福島の復興と子供たちのためとのことで感謝状が届いています。

・委員会報告

親睦委員会

・本日のニコニコ献金

長倉 巨樹彦会員 地区大会ゴルフ大会
で優勝しました。

・本日のプログラム

「米山記念奨学月間に因んで」

担当 長江 勉 R財団米山委員長



まず、ロータリー米山記念奨学事業について簡単にご説明します。

ロータリー米山記念奨学事業とは、日本の全ロータリアンが参加し、寄付金を財源として推進している事業で、日本で学ぶ外国人留学生へ奨学金を支給し、支援しています。

釧路南ロータリークラブも毎年協力をしております。本奨学会は、日本でロータリークラブの最初の提案者、米山梅吉翁を記念して命名されました。本奨学事業は、ロータリーの理想とする国際理解と相互理解に努め、国際親善と交流を深めるために優秀な留学生を支援し、世界平和の創造と維持に貢献することを目的としています。米山奨学生は奨学期間中にロータリーの例会や奉仕活動に参加することにより、日本の文化、習慣などを学び、社会参加と社会貢献の意識を育て、将来世界平和の創造と維持に貢献する人物となることが期待されます。



1年間に全国で約700人、これまでに121カ国から17,545人を支援しています。日本には、外国人留学生を対象とする民間奨学団体が129団体ありますが、米山はその中で最大の事業規模です。

今後、海外からより多くの留学生を呼び寄せようとしている日本の留学生政策にも大きく貢献しています。

また、奨学金支給額は1名当り1ヶ月、学部課程は10万円、修士・博士課程は14万円です。支給期間はいずれも2年以内となっています。

※「留学生30万人計画」2008年に福田康夫首相(当時)が打ち出した、2020年を目途に海外からの留学生を30万人(現在約14万人)に増やすというもの。



米山の1番の特徴は、規模が大きいことではありません。

“世話クラブ・カウンセラー制度”によって、毎月(奨学生によっては毎週)、例会に参加し、ロータリアンと交流することにあります。

この交流こそが、ロータリーがめざす平和への第一歩です。

人は、人生のなかでさまざまな人と接しながら、学び、変わっていきます。ある人との出会いが、人生を変えることも多々あります。

米山奨学生は、たくさんの国の中から日本を選んで、専門知識を学びに来た、優秀な人材です。

将来の世界を支える彼らに、日本人の“心”、ロータリーが求める平和への願いを理解してもらおう、大きなチャンスです。

戦争や領土問題などによって、民間交流は時に途切れそうになったり、互いが不信に陥ることもあります。

けれども、国民同士の友情なくして真の平和はありません。

政治や国というフィルターのない、人と人との交流の積み重ねこそが、絆を少しずつ強くします。

当クラブでも以前 バイウニラさんと言う奨学生の世話クラブを務めた。

■ポール・ハリス

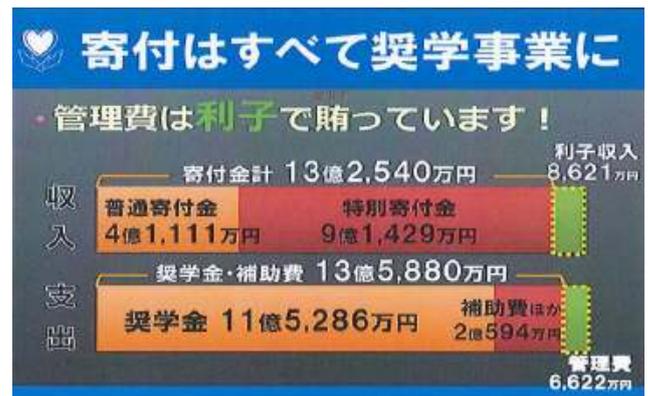
私は、ためらうことなく断言できます。世界平和は達成できる、と。さらに、友情、寛容、人の役に立つというロータリーの堅固な土台の上に平和を築くなら、恒久的なものにすることができます。

(キューバ、ハバナで開かれた1940年RI国際大会でのメッセージ)



皆さんの米山に対する日頃のご支援に心から感謝申し上げます。

つづいて、財政状況、地区の寄付状況についてご説明します。



みなさんが米山に寄付したお金は、全額、奨学事業に使われます。

理事会などの“会合旅費”、管理部門の“事務局人件費”などの管理費

支出は、“資産の利子収入”で賄っており、いただいた寄付はすべて、奨学事業だけに使われています。また、支出に占める管理費はわずか4.6%という非常に低い水準であることも、公益性の高さを表しています。

昨年度の寄付金収入は13億2,540万円だったのに対し、奨学事業に関わる費用の支出は13億5,880万円でした。全体の不足分は1,341万円で、これは流動資産で補いました。

米山では、2013年4月より奨学生数を800人から700人に減らして、事業費を抑えています。

当地区の寄付額の実績



地区別の個人平均寄付額（普通寄付＋特別寄付）です。

昨年度の全国平均は15,046円、最も高かったのは、第2590地区（神奈川県横浜市・川崎市）の28,982円でした。

2500地区の実績は、一人平均 7,288円、全国で34地区中、第34位でした。

7分区の実績は、284名で一人平均5,800円、釧路南RCの実績は、24名で一人平均6,916円となっております。釧路南RCの普通寄付は上期1,500円下期1,500円＝3,000円を会員数分を皆さんの年会費の中から寄付をしております。

2500地区の普通寄付額状況は1,000×4クラブ、1,500×1、2,000×27、2,200×1、2,500×4、3,000×14、4,000×9、4,600×1、5,000×5

66クラブ平均が2,720円となっておりますので、当クラブは平均以上と成っております

特別寄付は当クラブでは福井会員がマルチプル米山功労者〔特別寄付金〕3回、長江会員が第1回米山功労者〔特別寄付金〕、佐藤了会員が米山準功労者〔個人特別寄付金〕、木内会員が(株)きない 会社名で米山準功労者〔法人特別寄付金〕活動計画に記載を寄付しております。

寄付額の多いクラブは特別寄付が沢山寄付をされております。

皆さんの協力宜しくお願い致します。

寄付の税制優遇

寄付の税制優遇

- ・所得税、法人税の税制優遇！
- ・税額控除と所得控除
- ・普通寄付金にも適用可
※ただしクラブからデータ提供が必要

2,000円以上の寄付でメリット有

課税所得額750万円の方が10万円寄付をすると、**39,200円** 所得税が軽減されます

米山は公益財団法人ですので、米山への寄付は、所得税・法人税の税制優遇が受けられます。「税額控除」と「所得控除」、どちらか有利な方を選択することができます。

「税額控除」とは、寄付額の約40%を、所得税額から直接控除することができるもので、所得控除よりも控除額が大きくなることがあります。

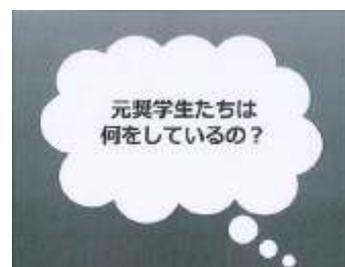
例えば、課税所得額が750万円の方が10万円寄付した場合、3万9,200円も所得税が還付されます。

特別寄付金のほか、クラブから会員数分お送りいただく普通寄付金も控除の対象です。

他の団体の領収証と合算して、年間2,000円以上の寄付でメリットがあります。

法人の特別寄付についても、法人税が軽減されます。このような寄付のメリットをご活用いただきながら、ぜひ、毎年のご支援をお願いいたします。

※ クラブ事務局担当者から会員氏名と金額を入力したものを提出いただきます。詳細は米山のホームページまで。



巣立った米山奨学生は、世界で、さまざまな活躍をしています。

そのうちの例をご紹介します。

中国の姫軍（キグン）さんは、多くの日本企業を顧客にもつ弁護士で、ヤマハ発動機を原告とする商標権侵害訴訟では、過去最高額での全面勝訴を勝ち取りました。

昨年、日中関係が悪化した際は、中国にいる日本企業や駐在員の安全のため、24時間ホットラインを設けて無料相談を受けたそうです。

彼はまた、2007年から毎年50万円もの寄付金を米山奨学会へ送りつけてくれており、中国学友会を正式に発足させた初代会長でもあります。

ここで、一つのエピソードをご紹介します。

2010年の夏、中部名古屋みらいRCが中国学友会(北京分会)を訪ねて、一緒に養護施設の子供たちを訪問しました。この日は9月18日。満州事変が起きたこの日は、中国全体で、日本への反感が最も高まる日です。

しかし、中国学友会も、養護施設の子どもも、職員も、ロータリーの一行を快く迎えました。

中部名古屋みらいRC会長として参加した会員は、「この経験があったからこそ、その後、日中間にどんなことが起ころうとも、お互いを理解し、思いやる気持ちに変わりはありません。この交流が誇りとなり、支えとなり、“動じない強い心”になっています」と、語っています。

スリランカ出身のスチッタさんは、一緒に日本に来た仲間たちが日本語になじめずに、夢をあきらめて帰国する姿を見て、母国に日本語学校をつくらうと決意しました。

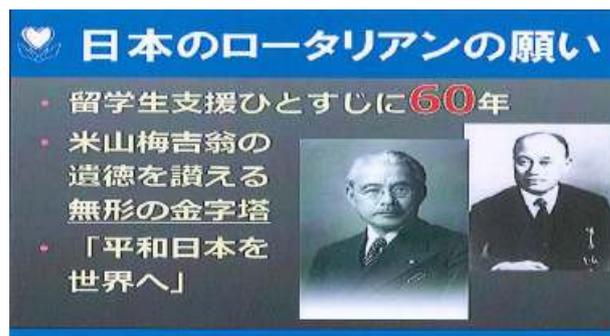
私財を投じて開校したのは、別府の名を冠した「別府日本語学校」です。日本語だけでなく、留学後すぐに生活ができるよう、箸の使い方や風呂の入り方など、日本の文化を教えています。

この学校の「留学コース」を修了した学生は、全員日本へ留学を果たしています。



さて、日本のロータリーは、なぜ独自の奨学財団を作り、外国人留学生を支援しているのでしょうか。米山奨学事業は、日本のロータリーの黎明期を支えた大先輩たちの手で作られ、脈々と受け継がれてきた日本独自の事業です。

留学生支援ひとすじに60年になります。



日本で最初のロータリークラブを創立した米山梅吉氏が1946年に亡くなったあと、“米山梅吉”の名を永遠に偲ぶことができるような、有益な事業をやるうではないか…という

ことで、1952年、東京RCが「米山基金」を立ち上げました。

なぜ、外国人留学生への奨学金という事業が選ばれたのか、いくつか理由はあったようですが、戦後の復興へと向かい始めた当時、「二度と戦争の悲劇を繰り返さないために、“平和日本”を肌で感じてもらいたい」という、当時の日本のロータリアンたちの強い思いがありました。

東京RCが始めた「米山基金」は、わずか5年で、日本の全ロータリークラブの共同事業となりました。

そしてこの事業の根幹は、日本に来てくれた留学生に、ロータリーの心、日本人の心を伝え、お互いに信頼関係を築くことで、世界の平和と発展に貢献することです。

日本のロータリアンたちが受け継いできた米山記念奨学事業は、今を生きるわれわれロータリアンの誇りでもあります。

先輩たちがつないできた米山の灯を消すことなく、次の世代に伝えていくために、米山の灯をますます燃やし続けましょう！ ご静聴ありがとうございました。



・ 次回のプログラム

11月1日(金)

「クラブ検討会(フォーラム)」

会場 釧路東急イン 12:30~

担当: クラブ管理委員会

・ 点 鐘 佐藤玄史会長

今週の会報担当: 福井克美会員